

## 消防ヒヤリハットデータベース事例情報シート

## 【事例概要について】



1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリ
2. 体験した事例の名称	梯子車のリフターワイヤーの絡まり。
3. 体験した事例の中心的要素	<p>梯子車のリフターを使用し要救助者を救出する訓練中に、リフターブレーキのロックピンをかけたまま屋内進入し、隊員間の意志の疎通が不十分であったためロックピンがかかったままの状態ですべての操作員がリフターを下ろそうとしてしまいリフターブレーキが掛かってしまった。さらに、その状態に気づかずに操作を続けたためワイヤードラムにワイヤーが絡まってしまったもの。</p> <p>このことにより、進入隊員の後退路の断絶や操作をさらに続けられ、ワイヤーの切断など機器が破損し飛散物による隊員の受傷が考えられる。又、実災害であれば、活動の遅滞・</p>
4. 体験した事例の原因・理由	不確実な操作、及び機器取り扱いの未習熟。

## 【体験した事例の直接的な原因について】



1. 体験した事例の直接的な原因	行動の実行に問題があった。
------------------	---------------

## 【体験した事例について】



1. 発生日時	平成 20 年 6 月 0 日 午後 2 時頃
2. 発生した当時の天候	晴
3. 発生した活動現場	屋外：庁舎敷地内
4. 体験した事例の種類	回答者が、他人を負傷させた。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	重傷の怪我をしていた（させていた）だろう。
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	飛来・落下ぶつにぶつかる、有害物と接触
7. 事例体験時の活動	演習訓練 [ 救助（通常時の訓練） ]
8. （7の活動中） どのような作業中に発生したか	高所救助訓練
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. 事例体験者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[35]歳、勤続年数[16]年、現場経験年数[10]年、階級[消防司令補]、同様の活動[1年に数度]、任務[車長]
○当事者B	年齢[29]歳、勤続年数[7]年、現場経験年数[5]年、階級[消防士長]、同様の活動[1年に数度]、任務[隊員]
○当事者C	年齢[26]歳、勤続年数[8]年、現場経験年数[2]年、階級[消防士]、同様の活動[1年に数度]、任務[機関員]
その他 (当事者が4人以上の場合)	別隊員D(23歳)

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	A	活動指揮, 安全管理	
経過2	C, D	リフター搭乗	
経過3	B	基部操作(リフター上昇)	
経過4	C	ロックピンをかけた建物5階部分に屋内侵入	
経過5	A	隊員C, Dに上階から下階の検索指示	
経過6	B	ロックピンを外さずにリフター降下 (リフターブレーキ作動)	
経過7	B	さらにリフター操作(ドラムにワイヤー絡む)	
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思いませんか？

ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思いませんか？

危険情報を把握、予見できた。危険事象の対応方法を知っていた。その他：訓練を途中中断した。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	はい
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	はい
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

いいえ
-----

【事故発生後の取り組みについて】



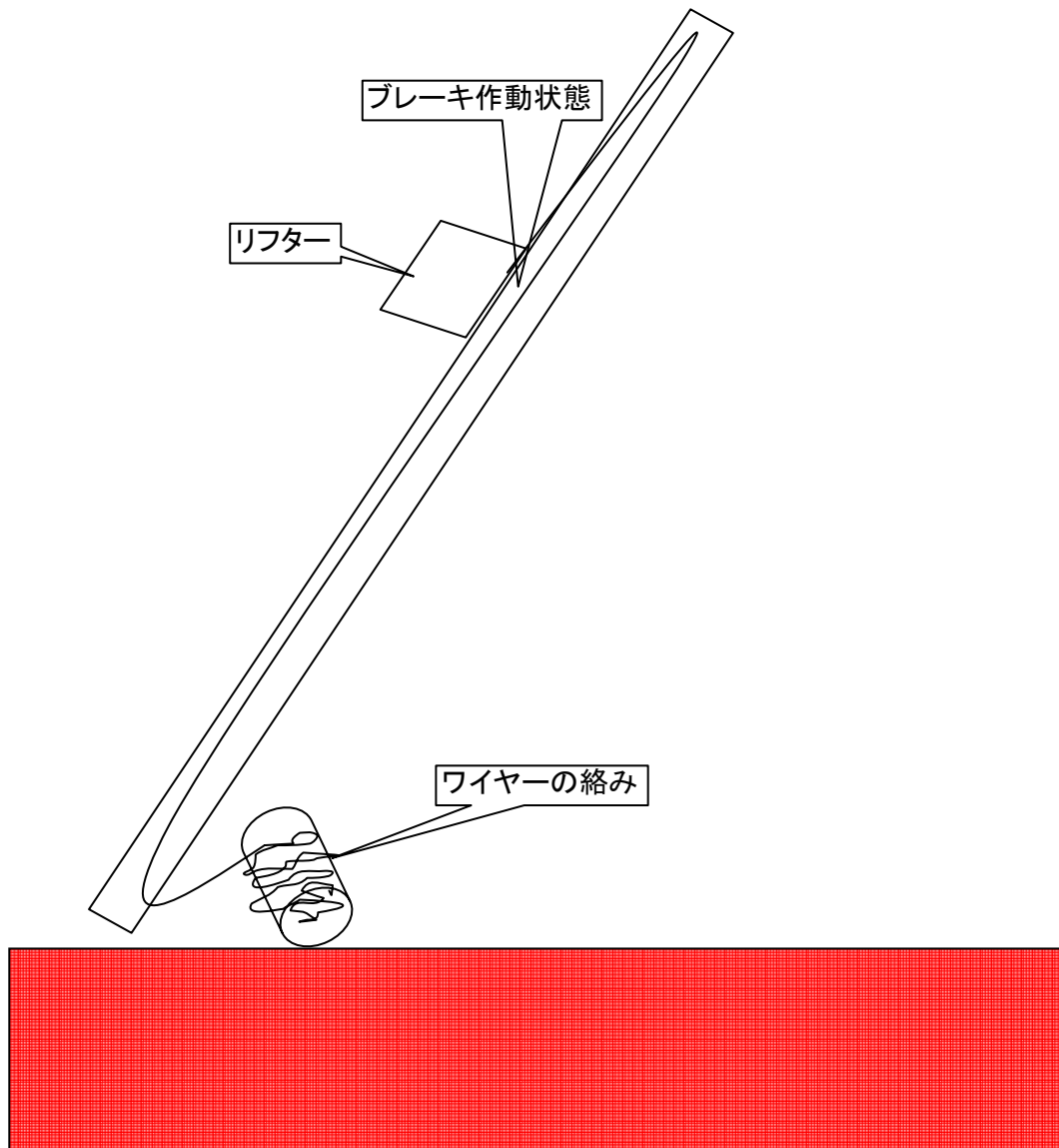
○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

別添1



ワイヤーが絡まることにより、以下の危険要因が考えられる。

- 1 進入隊員の後退路の断絶
- 2 さらに操作を続ければ、ワイヤーの切断など機器が破損し飛散物による受傷